

率は低く、全国35番目である。本市の設置状況は。

**答** 平成26年5月末の本市の設置状況は、普通教室、特別教室の全保有室数926教室のうち181教室に設置している。設置率は19.5%で、小学校19.4%、中学校19.7%である。また、幼稚園は保育室等の全保有数95室のうち50室で設置、設置率は52.6%である。

**問** クーラーを設置する場合の費用はいくらか。

**答** きつちりと積算はしていないが、15億円程度必要と見込んでいる。

**問** それは、ランニングコストは含んだ費用か。また、現在設置できていない普通教室、特別教室すべての費用か。

**答** 設置費用には、エアコンを含め受変電設備も見込んでいるが、ランニングコストは含んでいない。この計算は、全教室にエアコンを入れた場合を想定したものである。

**問** 毎日使う普通教室のみにクーラーを設置すれば、いくら必要か。

**答** 8億円以上必要で、幼稚園は6千万円以上必要と試算している。

**問** 学校環境衛生基準では、教室等の温度は、夏は30度以下、冬は10度以上が望ましく、学習に望ましい条件は、冬場で18〜20度、夏場で25〜28度である。昨年9月議会での回答では、クーラー設置に向けた調査はしていないとのことだったが、その後の取り組みは。

**答** 7月と9月に各部屋の温度測定をしており、今後分析したい。

**問** 40度になる部屋もある。条件等でも違うが、7月の最低温度の平均は30度、最高は40度と出ている。実際にクーラーを入れるのは6〜9月だと思うが、この時期に体調不良などで保健室を使用した生徒の数は。

**答** 小中全体で、6月は4,887人、7月は2,668人である。数人は、暑さからと思われる理由により、保健室で休養したと聞いている。

**問** 熱中症予防指針によると、30度であっても湿度が45%を超えれば熱中症に対して警戒が必要で、65%を超えると厳重警戒、80%を超えると危険な状態と言われており、同じ温度でも湿度が高ければ熱中

症になりやすい。過去のデータから調べると、6月は警戒が17日、厳重警戒が1日、7月は警戒が6日、厳重警戒が10日、危険が11日、9月は警戒が18日、厳重警戒が6日である。クーラーの設置に対する考えは。

**答** 費用的な問題もある中、現在は耐震補強を中心に施設整備を進めており、耐震化は平成27年度完了予定である。扇風機の設置などで工夫はしている。耐震化工事後の大規模改修等で断熱材やペアガラスも取り入れ、様々な観点から検討したい。

**問** こども園にはクーラーが設置されているが、単独の幼稚園にはない。一番暑い2時

〜4時ぐらいにも預かり保育は実施している。預かり部屋やリズム室だけでも設置できないか。また、温度調節のできない子どもがいる特別支援教室にも設置できないか。

**答** 特別支援教室には、一部エアコンを設置している。幼稚園のリズム室等については、状況を見ながら検討したい。

**問** 平成23年度から学校ICT教育環境整備事業を実施しているが進捗状況は。

**答** コンピューター室では、全小中学校インターネット使用可能である。平成23年度からモデル的に小中各1校ずつ校内LANの整備をし、現在4小学校、4中学校で整備済である。今後も、年次的に整備したい。

**問** 校内LAN整備の1校当たりの費用は。

**答** 規模によるが、1校当たり30〜40万円程度である。

**問** 年次的に整備しても、最初と最後の学校ではかなり差が出る。同じ環境で子どもたちを教育しないといけない。できるだけ早く整備すべきと思うが考えは。

**答** 学校の状況、要望等も聞き、適宜整備していきたい。

**問** 電子黒板についても「全国的な動向を見ながら整備を検討していく」と事業計画に書かれている。現状と今後の方向性は。

**答** 昨年9月に、電子黒板機能付きプロジェクターを各中学校各学年に1〜3台、計39台導入した。それを含め教育用のプロジェクター・スクリーンは135台あり、電子黒板は5台ある。今後も現場の意見を踏まえ整備したい。

**問** ICTの活用において、先生に差があつてはいけないと思うが、ICT活用の支援体制や教員の研修等の実施についての考えは。

**答** 平成22年度から5年契約でICTサポートが月2回程度学校に来て授業支援をしている。電子黒板機能付きプロジェクターの導入時にも、研修会を開催し、教職員のスキルアップに努めている。今後も研修を重ねたい。

**問** 全国の公立小中学校で通級による指導を受けている子どもは年々増加している。本



学校環境衛生管理マニュアル

## 通級指導教室